

すいたレジ袋削減・マイバッグ推進協議会（第19回）会議録（概要）

- 1 開催日時 平成27年（2015年）3月31日（火） 14時00分～14時55分
- 2 開催場所 メイシアター集会室
- 3 出席者名簿 別紙「出席者一覧」のとおり
- 4 配付資料 資料1 マイバッグ持参率の現状について
資料2 第18回すいた環境教育フェアについて
資料3 平成26年度レジ袋削減・マイバッグ持参促進啓発について
- 5 会議要旨 以下、「会議要旨」のとおり
 - (1) 持参率の現状について
 - (2) 第18回すいた環境教育フェアの報告について
 - (3) 平成27年度レジ袋削減・マイバッグ持参促進啓発について
 - (4) その他

会長挨拶

1 持参率の現状について

【事務局】～資料1に基づき説明～

【会長】質問あるか。

【全員】なし

2 第18回すいた環境教育フェアの報告について

【会長】事務局より報告をお願いします。

【事務局】～資料2に基づき報告～

【会長】何かあるか。

【市民団体A】レジ袋削減・マイバッグ推進協議会のブースに参加した。事業者の啓発品が少なかったように思う。また参加者も少なかったように思う。

【会長】17回までの環境教育フェアを知っておられる方にはそういう意見もあったかもしれない。色々な話し合いがあった中で、問題を残しながら環境教育フェアは幕を閉じたということを認識していただきたい。

3 平成27年度レジ袋・マイバッグ持参促進啓発について

【会長】事務局より報告をお願いします

【事務局】～資料3に基づき報告～

【会長】何かあるか。

【事業者A】平成26年度は効果的なキャンペーンをされたと思う。平成27年度にどういうふうに推進していくかということが課題。現状として持参率が目標値に近づいてきている。50%に達した時点でもいいから、マイバッグ持参からマイバッグ携帯に変えてはどうか。持参とは買い物目的の人がマイバッグを持っていくことをいう。マイバッグ携帯とは出かける際はマイバッグを持っているということ。携帯であれば急な買い物であってもレジ袋を断ることができる。協議会がそういう取り組みをしてもらえると、事業者も可愛いおしゃれなマイバッグを作って安く販売するという提案もできるのではないかと。2か月前に、滋賀県の協議会に参加させてもらった。そこでは、コンビニの持参率を調査している。コンビニはついで買いが多いのでマイバッグを持っていないというのが現状。それであれば携帯したほうがいい。一歩踏み込んだ形で考えてみたらどうか。

【会長】非常にいい意見。検討する価値は十分にある。

【市民団体B】事業者Aさんのご提案はいい。常に携帯していないといけないことをPRしていくことは必要。今の提案は賛成である。また、高齢者の方はごみ袋の代わりにレジ袋を使う。そのあたりを上手く説明することを考えないといけない。

【環境部長】吹田市が勧めているのは、ごみ袋は透明もしくは半透明でとお願いをしている。事業者さんの協力もあって、レジ袋が透明に変わってきている。これは、吹田市が指定のごみ袋を使わずに、大きめのレジ袋で中身が見えるものであれば、ごみ袋として収集をお受けしているという前提がある。また、市役所で2月からローソンさんができたときに、市がレジ袋を減らしていこうという試みをしているので、なるべく配らないようにしてほしいと言ったが、その時に「レジ袋を渡さないのは失礼にあたる」とおっしゃった。そういう気持ちを持っている事業者さんもいることを知った。

【市民団体C】レジ袋をごみ袋にするという口実でレジ袋を貰っていくことがあると思うが、やはりごみ袋は市の指定制にしなければならないと思う。市では指定袋制にする予定はないのか。

【環境部長】レジ袋の中に直接ごみを捨てているのであれば効果があると思うが、指定袋の中にレジ袋が入っているのであれば意味がない。現在のところ、指定袋制にする予定はない。

【会長】この問題はなかなか一長一短で解決できるものではない。それぞれの立場で考えが違ふ。全体のことを考えていかなければならないと思う。レジ袋を使うことが環境破壊につながることを市民の皆様にご理解していただかなければ。

【市民団体B】イズミヤさんの提案はとてもいい。みんな持って歩こう、買い物だけに限らないんだと。そういう趣旨でいけばいいのではないかと。

【市民団体D】風呂敷の包み方講習会に参加した。こんなことをもっとやってほしい

という意見があった。機会を見つけてこういうことをやっていったらいいのでは。また持参率について、ほっておけば下がってしまう。なぜマイバッグなのかをもっと浸透させるには今後もキャンペーンを続けていくことにより持参率は上昇するのではないか。

【事業者B】レジ袋削減のことだけではなくて環境全体のことを考えなければならないのではないか。そのきっかけづくりをしなければならぬのでは。ずっと続けることが大事。

【事業者C】今まで持参と言ってきたが、持参ではなく携帯することが大事。それが持参率の上昇にもつながると思うので、継続していくことが必要。

【事業者D】兵庫県の取り組みをお話しさせていただく。40年以上前に組合員の「もったいないやん運動」が始まり、阪神淡路大震災の前の持参率でも50%を達成していた。震災のあと、一気に有料化を図った。最初は騒ぎがあったりしたが、浸透してきた兵庫県内で持参率が91%である。兵庫県ではハンドバッグの中に袋を入れているのが常識になっている。レジ袋有料化を将来的に考えていってもいいのではないか。

【事業者E】今回初めて参加をした。持参率を見せてもらったが、弊社が足を引っ張っている。現在、有料化しておらず、何度か検討したがなかなか認めてもらえない。そんな中で従業員向けポスターや店頭掲示ポスターでの啓蒙をしている。イズミヤさんの提案は是非やってみたいと思う。

【市民団体E】参考になるかわからないが、いかりスーパーさんの独自の紙袋を作っている。お客さんで、いいものを買った気になるから、その袋でよその買い物にも行っているという人がいる。袋をなくすのは経費削減でいいが、お客さんが減ってしまうのではないかという心配もある。

【会長】できるだけ市民の皆さんに使い勝手のいい、どこにでも入れておけるようなマイバッグを作っていただけたら。またできれば事業者の皆さんに披露していただきたい。促進啓発については活動をしていかなければならない。

【市民団体F】この頃「レジ袋をおつけしましょうか？」と持っていないことが悪いことのような感じで言葉をかけてくれる店舗が増えている。そういう姿勢はいいと思うし、そこでもめているようなところは見たことない。今後も貫いていただけたらいいのでは。また、母子会まつりで風呂敷包み方講座をさせていただいた。母子会さんには手作りの風呂敷をご用意いただき、80名の参加のもと行なった。覚えて帰ってくださった方も大勢いらっしゃったので機会をあちこちで設けていただきたい。風呂敷が今、静かなブームになっており若い方でも受け入れるようになっていると思う。講習会を行なう中で、割と年配の方からは「家にあるからまた使おう」というようなご意見を聞く。根気よく続けていくことで効果がでてくるのではないかと思うので、是非続けていきたい。

【会長】 それぞれの立場でレジ袋削減を呼びかけていただければいいと思う。
ほかに意見がないようであればこれで終了とする。